

## 2021 年度大学入学共通テスト 解説〈地理 B〉

### 第1問 世界の自然環境

A

問1  正解は①

「海からの距離（隔海度）による雨温図への影響」の確認のために比較すべき、仮想的な大陸上の2地点を選択する。気候因子のうち、隔海度が大きく異なり、他の因子（緯度・標高・周辺の地形など）は同一となるように選ぶ。他の因子の影響を排除するためである。なお、どの選択肢も緯度は揃えられている。

- ①は適当。沿岸のアと内陸のイの組み合わせで、隔海度の差が大きい。緯度・標高はほぼ同じで、周囲は共に広い平野である。
- ②は不適。平野中央のイに対し、ウは高い山地の麓にあり、地形の差が大きい。
- ③、④は不適。オのみ標高3000m以上、エとカは海面に近いため標高が低く、どちらの組も標高の差が大きい。

問2  正解は②

雨温図に関する会話文の空欄補充。気候の理解に加え読解力も必要となる。

地点Dの雨温図をみると、夏季が7月ころなので北半球に位置し、年800mm程度の降水があり、最寒月平均気温がマイナス3度以上18度未満に収まっているため温帯である。さらに、夏季少雨の特徴から地中海性気候（C<sub>s</sub>）と判断する。

サは亜寒帯低圧帯（高緯度低圧帯）。地中海性気候は、夏季に高緯度側に移動する亜熱帯高圧帯によって乾燥し、冬季には低緯度側に移動する亜寒帯低圧帯と温帯前線によって湿潤となる。サには「降水量が多い時期の雨」すなわち冬季湿潤の要因が入るので、亜寒帯低圧帯がふさわしい。

なお、熱帯収束帯は赤道付近にあり、熱帯雨林気候（A<sub>f</sub>）に通年の多雨、サバナ気候（A<sub>w</sub>）に夏の雨季、低緯度側のステップ気候（B<sub>S</sub>）に夏の短い雨季をもたらす。

シは短い。地点Eは「地点Dからほぼ真南に約800km」の地点であるが、「最暖月…現れる時期がほぼ同じ」であるから、同じ北半球に属する。とすれば、地点Eは南側にある分だけ、北から移動してくる亜寒帯低圧帯の影響を地点Dよりも受けにくくなる。つまり、冬季の「月降水量30mm以上」の湿潤な時期は短くなる。場合によっては、地中海性気候ではなく、高緯度側のステップ気候区（冬に短い雨季）に分類される。

問3  正解は①

気候変動に関連した自然災害に関する会話文の空欄補充。センター試験ではあまり出題されなかった8択の形式である。特に空欄ツは、会話の文脈を考えて慎重に判断したい。

タは a、チは c。災害に対する弱さ（脆弱性）とは、自然環境面の要因（災害のきっかけ）に対し、人間活動による社会環境面の要因を指すと考えられる。例えば同じ震度の地震という災害のきっかけであっても、都市の密集度や土地利用の違いによって脆弱性は異なるため、災害の規模に差が出る。

河川上流域の森林が伐採されると、「緑のダム」とも呼ばれる森林の保水機能が失われ、同じ規模の熱帯低気圧が襲来しても洪水災害の規模が大きくなる。人間活動により農地が荒廃していると、異常気象がもたらす被害が拡大する。b・dのきっかけで発生した災害が、a・cの脆弱性で重大化するのである。

ツは G。タカシの発言から、「災害のきっかけ」（＝この場合は熱帯低気圧の来襲が起こる状況）を事前に知っておく必要について論じていることがわかる。したがって、熱帯低気圧が発生する夏の雨季について、「熱帯低気圧の発生が多く、降水量が多かった事例」と「熱帯低気圧の発生が少なく、降水量が少なかった事例」を比較したい。そうすれば熱帯低気圧が多くなる場合の条件を知って、これに備えることが可能になる。

## B

問4  正解は③  正解は③

山岳に関する会話文の空欄補充。該当する山岳の個数を選択させる、センター試験では例の少ないユニークな出題である。

マは③。現在の変動帯にあたる新期造山帯のうち、アルプス＝ヒマラヤ造山帯に位置する J（エベレスト山）、環太平洋造山帯に位置する K（デナリ＝旧称マッキンリー山）と L（アコンカグア山）の3座である。Mのコジアスコ山は古期造山帯のグレートディヴァイディング山脈の南部（オーストラリアアルプス山脈）にある。

ミは③。氷河には、高緯度で夏も氷点下となる南極大陸とグリーンランド内陸部にみられる大陸氷河（氷床）と、標高の影響で夏も氷が融けない山岳頂上付近にみられる山岳氷河（谷氷河）がある。融氷せずに山岳氷河が発達する下限の標高地点を結んだ線を雪線という。雪線は緯度や地形、降水量などの条件により様々であるが、赤道上のキリマンジャロ山で 5895m の山頂付近に雪線があるとすれば、それよりも高緯度かつ標高の高い J・K・L にも氷河が発達していると考えるのが自然であり、実際に存在している。M については、緯度が同程度である日本で、立山連峰（富山県）の標高 2000m 付近に小規模な氷河が存在している（近年存在が確認された）ため判断が微妙だが、M では北陸地方ほど大量の降雪は考えられず、氷河は存在していない（氷期に形成された氷食による氷河地形は残っている）と判断する。

問5  正解は②

山岳の景観写真に関する発言内容の正誤判定。正誤の組み合わせを選択させる形式はセンター過去問でも出題されているが、選択肢が表形式であった。「誤りを含むもの」を選ぶ点に注意したい。

ヤは誤り。森林の有無は降水量のみでは決まらない。湿潤かどうかは降水量と蒸発量との関係で決まるし、樹木の生育には気温も関係する。

ユは正しい。平均的に、標高が 100m 上昇するごとに気温は 0.55℃ ずつ低下する（気温の通減率）。よって、キリマンジャロ山の麓は熱帯雨林やサバナだが、高度が上がるにつれて落葉広葉樹林、針葉樹林（地点 P）、ツンドラ（地点 Q）と植生が変化する。

問6  正解は⑤

山岳氷河の縮小に関する資料の判別。素直に考えたい。

ラは h。氷河が縮小するのは、夏季に以前なら融けなかった氷河が融けて流出するためである。したがって、縮小のピーク期には夏季の流出量が特に多いと考えられる。

リは X。氷河が融けて流出する水が増加すれば、一時的には発電用水や農業用水が豊富になるが、一方で洪水発生の危険性は高まる。また、ピークを過ぎて氷河が消失すれば、一旦は増加した用水も乏しくなる。

## 第2問 産業

問1  正解は⑤

小麦の生産統計に関する説明文の判別。統計の読み取りが正確にできれば、説明文の当てはめは難しくない。先に表中の国名を判定しておこう。

「小麦の 1 ha 当たり収量」が突出する C はフランスである。アメリカ合衆国やロシアに比べて、国土面積の小さいヨーロッパ諸国では、集約的な農業によって土地生産性を高めている。また、国土の大部分が平坦な温帯気候区であるため、耕作可能な面積が広く「国土面積に占める耕地の割合」がきわめて高い。

逆に「国土面積に占める耕地の割合」が最も小さい B はロシアである。ロシア北部はツンドラの寒帯、東部の大半は針葉樹林タイガに覆われた亜寒帯であり、耕作に適さない。よって、残った A はアメリカ合衆国である。

A はウ。アメリカ合衆国では、バイオ燃料などの用途での需要が高まるとうもろこしの生産が拡大している。「他の穀物との競合」との表現はとうもろこし生産量の増加による小麦生産量の減少を示唆しており、表中で小麦生産量が減少している国は A のみ。

Bはア。ロシアでは旧ソ連時代のコルホーズ（集団農場）やソフホーズ（国営農場）での計画に基づいた生産から、それらの農場を再編した農業企業、独立した農民経営、個人の副業経営（ダーチャと呼ばれる菜園付き別荘での生産）などによる自由な生産活動に移行している。

Cはイ。EUの新しい共通農業政策では、補助金の目的が農産物の価格支持や輸出助成といった農業振興から、条件不利地域での営農の維持や景観や環境の保全といった農村振興に転換している。

問2 9 正解は③

水産業に関する統計地図とその凡例の判別。やや易しめの設問であり、確実に得点したい。

2017年の図はキ。世界の水産業の生産高は長期にわたって増加傾向にある。特に近年は中国、インドネシア、ベトナムといったアジアの新興国を中心とした養殖業の拡大が顕著である。このため、特にアジアの図形表現が大きいキを選ぶ。

養殖業生産量の凡例はE。上記のように、中国やインドネシアなどで養殖業の生産が伸びていること、アンチョビー（かたくちいわし）漁のさかなペルーなどでFが大半を占めることなどから判断できる。

問3 10 正解は④

輸送費と工業立地に関する模式図の判別。条件に「輸送費は距離に比例」とあるので、同心円は、中心が0円で、内側の小円から順に1万円、2万円…の等値線となる。また、「原料は製品の2倍の費用がかかる」とあるので、かつての鉄鋼業における石炭のような重量減損原料（製品化すると軽くなる原料）を想定できる。抽象的な理論が題材だが、究極的には足し算の問題なので慌てずに対応したい。

④では、原料輸送費0円＋製品輸送費2万円＝総輸送費2万円が最も安い。

これは原料（産地）指向型の工場立地である。

- ① 原料輸送費4万円＋製品輸送費0円＝総輸送費4万円。
- ② 原料輸送費2万円＋製品輸送費1万円＝総輸送費3万円。
- ③ 原料輸送費3万円＋製品輸送費2万円＝総輸送費5万円。

問4 11 正解は③

酪農工場の立地に関する文と統計の判別。それぞれの製品の特徴を考えて、統計に当てはめたい。

サは K。サに当てはまる製品はバターである。バターは液体である生乳を濃縮し、多くの場合塩分を加えて固体に加工する。よって、原料に比べて日持ちがするうえ体積が小さく運びやすく、製品の方が輸送費は安い。よって原料である生乳の最大の産地である北海道で加工し、消費地の関東に輸送するケースが多いため K に該当する。

シは J。シに当てはまる製品は飲用牛乳である。飲用牛乳は生乳を殺菌し、脂肪分を調整したものである。したがって、原料と製品の重量・体積に大きな差がないため、原料産地と消費地の間どこで加工しても輸送費はあまり変化しない。よって 3 地域の立地数に差のない J を選ぶ。他の 2 品目に比べて全体的な需要が大きく工場の絶対数が多いことも参考になる。

スは L。スに当てはまる製品はアイスクリームである。アイスクリームは溶けてしまうと商品価値がなくなるので、切れ目のない冷凍輸送が不可欠となりコストがかさむ。よって、できるだけ消費地に近い地点で製品化した方が輸送費は安い。消費地である関東に工場立地が集中する L が適当である。

問5 12 正解は③

日系海外現地法人の売上高に関する統計の判別。ヨーロッパのグラフも参考にしたい。

A S E A N はチ。現地の安価な労働力を利用するために日系企業の進出が増えてきたが、進出先の経済水準向上によって人件費が上がっていることや、中国などへの進出拡大によって、近年の構成比は停滞している。

アメリカ合衆国はタ。1980 年代に生じた自動車貿易摩擦をきっかけに多くの日系企業がアメリカ合衆国やヨーロッパに進出して現地生産を開始したため、早い時期から売上高構成比は高かったが、アジアなど発展途上地域への進出が増えるにつれて低下傾向にある。同じ先進地域であるヨーロッパの推移と似ている点に注目したい。特に 2008 年のリーマンショックによる売り上げの落ち込みは特徴的である。

中国はツ。改革開放政策による工業化で「世界の工場」となった中国は、2001 年には W T O（世界貿易機関）に加盟して、世界貿易の成長の中心として発展している。このため、日系企業の進出も大きく拡大している。このタイプの問題では「急成長しているグラフは中国」という解法が成り立つ。

問 6 13 正解は⑥

商業形態別店舗数の統計の判別。頻出事項であり、百貨店は判別しやすいが、凡例の一部も隠されているため、他の2つの区別はやや難しい。与えられた情報をしっかり使い切りたい。

まず、商業形態のうち、Xは百貨店である。大規模店舗を持ち比較的高価な買い回り品を扱う百貨店は、広い商圈を持つため、都心周辺の高級商業地区や、利用者の多いターミナル駅周辺など、主に鉄道交通と結びついた都市の中心部に立地する。

次に凡例のうち、マは住宅街、ミはロードサイドである。「小売業計」のグラフをみると、マの割合が最も大きく、ミはわずかである。これは「小売業計」だから X～Z 以外の一般の小売店など全ての形態を含んでいる。私たちは食品や日用品の大半を自宅周辺の商店・スーパー等で購入しており、それらは主に住宅街に立地している。

すると、Yが大型総合スーパーとわかる。大型総合スーパーは、自家用車で来店するまとめ買い客を想定して広い駐車場を有しており、ロードサイドに立地することが多くなる。残った Zがコンビニエンスストア（コンビニ）である。コンビニは生活に身近な利便性が特徴であり、住宅街やオフィス街に立地して徒歩で来店する客を多く集めている。

## 第3問 都市と人口

問 1 14 正解は③

大都市の分布に関する統計地図の判別。センター試験の過去問にも類題が多い。イだけを選ぼうとすると間違えやすい。このような設問では、全ての選択肢を当てはめてみる方がよい。「急がば回れ」である。

イは③。南～西は人口密度の高いインド北部～パキスタンにあたり、大都市が多いが、中央から北はヒマラヤ山脈周辺からチベット高原などにあたり、人口の分布はまばらで大都市は存在しない。

アは①。南西にはギニア湾岸のナイジェリアが位置し、大都市が存在するが、北部はサハラ砂漠であり大都市は存在しない。③との違いは全体の大都市数と西側の都市分布の有無である。

ウは④。世界最大の人口を抱える中国でも特に人口が密集する東部の平野部にあたり、沿岸からやや内陸まで大都市の数は4地域で最も多い。

エは②。大都市は内陸のブラジル高原には少なく、東部の海岸線に沿って並んでいる。

問2 15 正解は②

3か国の国全体と人口第1位都市における年齢階級別人口統計の判別。データの組み合わせがやや複雑であり、内容把握に手間を要する。aとbの判別には、その差が大きくなる発展途上国の統計を用いる。

オーストラリアはカ。一般的に先進国では少子高齢化が進行しているが、オーストラリアでは若い移民の割合が高く、年少人口（0～14歳）の割合が韓国より大きい。

韓国はク。日本と同様に、育児と就業の両立が難しい社会構造を持ち、女性の社会進出が妨げられている。このような課題は、出生率低下の形で現れる。韓国の場合、日本以上の学歴社会であり、受験競争の厳しさから教育費が高いことも少子化の原因となっている。年少人口割合は3カ国中で最も小さい。

ケニアはキ。農業中心の発展途上国では、こどもが労働力として期待されており、農村における出生率が特に高く、年少人口割合がきわめて大きい。また、栄養・衛生状態や医療体制などが不十分で寿命が短いため、老年人口割合（65歳以上）が著しく小さい。

aは国全体、bは人口第1位都市である。発展途上国のケニアでは、人口の急増する農村部で失業した人々が、就業機会を求めて人口第1都市（首都ナイロビ）に流入する。そのため、人口第1都市では生産年齢人口（15～64歳）の割合が大きくなる。しかし、大都市でも産業は未発達なため、郊外に大規模なスラムが形成され、劣悪な環境の中でその日暮らしをする者が多い。

問3 16 正解は①

インド系住民（印僑）に関する説明文の正誤判定。当然ではあるが、地図中の国名など一定の知識が必要な問題である。

①は適当。移住先の国籍を有する者が多い主な国をみると、イギリス、カナダ、アメリカ合衆国、南アフリカ共和国、マレーシア、シンガポール、スリランカなどを挙げることができる。イギリス本国以外は旧イギリス植民地であり、多くは英語を公用語としている。やはりイギリス植民地だったインドでも英語は準公用語となっており、英語話者が多いため移住における障壁が低い。

②は不適。マレーシアには天然ゴム農園の労働者として、ラテンアメリカにはさとうきび農園の労働者として移住した者が多く、観光業従事者は少ない。

③は不適。西アジアの油田開発は主にメジャーを中心とする先進国の資本と技術を導入して行われてきた。インド系移民の多くは都市建設などに従事する単純労働者が多い。

④は不適。インドでは1990年代からの経済開放政策によって、南部のバンガロールなどで情報通信技術（ICT）産業が成長している。アメリカ合衆国に移住する留学生や技術者は多いが、帰国して本国で創業する者も増えている。

問4 17 正解は③

東京都の市区町村別人口分布に関する統計の判別。Aは都心の中心業務地区を有する中央区、Bは住宅地区が広がる杉並区、Cはニュータウンのある多摩市である。地名の知識は不要だが、地図中の位置から地域の性格を推定したい。

Aはシ。1965～1970年の高度経済成長期にはオフィスビルの集積により地価が高騰して、定住者が郊外に移転するドーナツ化現象に見舞われたが、2005～2010年には都心部で再開発事業が進んで高所得の若年層が流入し、人口の都心回帰がみられた。

Bはサ。大正時代までは農村地帯だったが、1923年の関東大震災によって当時の東京市から住民が流出してきて宅地開発が急速に進んだ。そのため、1925～1930年の人口増加率がきわめて高い。

Cはス。多摩ニュータウンは高度経済成長期に東京圏に流入した若い労働者向けに住宅を供給する目的で建設されたため、1965～70年の増加率が突出する。現在は当時の入居者が一斉に高齢化し、コミュニティの維持が困難になりつつある。

問5 18 正解は②

日本国内の空き家等に関する統計の判別。知識不要の易問であり、常識を働かせて正解を導きたい。

Eはタ。別荘は、主にレジャー目的の人が利用するための観光地・保養地などにある住宅である。

Fはツ。過疎化が進む農村や、高齢化が深刻な古い住宅地では、住む人を失った空き家の増加が社会問題化している。

Gはチ。転出入の多い大都市圏では、賃貸・売買の市場向けに供給される住宅が多い。

問6 19 正解は③

タイペイ（台北）の交通網に関する資料を説明する文章の正誤判定。難しくないので、確実に得点したい。

xは誤。早い時期（1989～1995年）には都心内部において、主要駅周辺の商業地区と思われる地域と市役所周辺のCBD（中心業務地区）と思われる地域を結ぶ道路でのレーン設置がみられ、その後に郊外と都心を結ぶ路線での設置が行われている。

yは正。バスに比べて地下鉄の方が、輸送量が大きくなるのは明らかである。グラフから、2000年代半ば以降の地下鉄路線の拡充が読み取れる。



## 第4問 アメリカ合衆国

### A

問 1 (1)  正解は②

(2)  正解は①

(1)は米国の人口重心の移動方向の判定。基本テーマであるが、記号の位置ではなく矢印の向きをみて選びたい。

(2)は、(1)に示された移動の要因の文章選択。(1)がわかっているならば容易である。ある設問の正解・不正解が後の設問に影響するような出題はセンター試験では避けられてきたので、今後の共通テストでは注意が必要である。

アメリカ合衆国では、北東部スノーベルトの鉄鋼業や自動車産業などの重化学工業部門が衰退し、代わって南部や西海岸のサンベルトで先端技術産業が急成長した。ヒスパニックなどの移民が多く居住するサンベルトは(2)の①にある通り比較的安価な労働力が豊富で、州政府の誘致などによって多くの企業が移転した。また、温暖な気候は高度な技術労働者を引きつけた。このような変容に伴って人口重心はイのように北東から南西へと移動している。

問 2  正解は⑤

3つの州の水資源に関する統計の判別。各州を含む地域における産業の特徴を理解していることが前提である。

テキサス州はク。テキサス州は石油や天然ガスなどの地下資源が豊富で、ヒューストンやダラスなどの工業都市が発達しており、シリコンプレーンと呼ばれる先端技術産業の集積地を形成している。よって工業用水の需要が大きい。

ネブラスカ州はカ。グレートプレーンズに位置するネブラスカ州では、ロッキー山脈が育んだ地下水の巨大な帯水層を利用して、とうもろこしなどの灌漑農業がさかんである。よって、地下水・農業用水の割合が高いカを選ぶ。

マサチューセッツ州はキ。大西洋岸の大都市ボストンを有する人口集中地域であり、他に比べて生活用水の割合が高くなる。また、沿岸部にあつて水蒸気量が多いため、降水が豊富で地表水の利用が多い。

問3 23 正解は①

2都市のハイサーグラフと農産物統計の判別。問2もそうだが、州名の知識は不要である。

ワシントン州のハイサーグラフはサ。アメリカ合衆国の西海岸には地中海性気候Csが分布しており、「夏季に乾燥」の特徴を示す。サは高温の7月頃の月降水量が50mm未満と少なくなっており、これに当てはまる。この知識がなくても、熱しにくく冷めにくい海洋からの偏西風が吹く地域なので、東部内陸のミシガン州に比べて気温の年較差が小さい。よって縦方向の幅が狭いグラフを選べる。

ミシガン州はシ。五大湖周辺は冬の気温がマイナス3℃を下回る亜寒帯湿潤気候Dfである。熱しやすく冷めやすい内陸にあり、気温の年較差が大きい。

ワシントン州の作物生産量はG。高緯度だが海洋の影響で冬でも温和なので、冬小麦の栽培が可能である。冬に寒冷となるミシガン州は、北海道と同様に寒さに強い製糖原料であるテンサイを多く栽培するためHに該当する。

問4 24 正解は①

2つの州および、それぞれの州の2つの都市の人種民族統計の判別。データの構成が複雑だが、慌てずに慎重に考えたい

ワシントン州はチ。太平洋に面するワシントン州はアジア系住民の割合が高い。また隣接するカリフォルニア州に次いでヒスパニックの割合も高くなる。逆にアジア系が少ないミシガン州はタである。

州全体はJ、人口最大都市はK。ミシガン州を含む北東部では主にヨーロッパ系白人が住民の中心であるが、自動車工業都市デトロイトには、綿花プランテーションの機械化によって職を失った解放後のアフリカ系黒人が、工場労働力として南部から大量に流入した。アメリカ合衆国の大都市では民族ごとの住み分け（セグリゲーション）の傾向が明確で、デトロイト都心周辺には多くのアフリカ系の人々が集合住宅に居住する地域が形成され、白人は環境の良い郊外に移転し、庭付き一戸建てに居住するようになった。

## B

問5 25 正解は②

外国生まれ人口の割合・貧困水準以下の収入の人口の割合・持ち家率などの社会経済に関する統計地図の判別。内容は平易なはずだが、迷って決めづらかった受験生も多かっただろう。

外国生まれの人口の割合はマ。前問で述べたように、西海岸ではアジア系、カリフォルニア州などメキシコと接する各州にはヒスパニック系の外国出身者が多い。他にキューバに近いフロリダ州にはキューバからの、北東部の大都市周辺には世界中からの移民が多い。

貧困水準以下の収入の人口の割合はム。一定の工場労働者の流出後も南部ではアフリカ系黒人の割合が高い。奴隷解放から約 160 年、差別撤廃を訴える公民権運動から約 60 年経過したが、今もなお黒人の経済的地位は低く、潜在的な差別は続いている。これに対する不満が 2020 年に高まった BLM (Black Lives Matter = 黒人の命も大切) 運動につながっている。

持ち家率はミ。比較的経済力の高いヨーロッパ系白人の割合が高い北部や、土地との結びつきが強い農業地域で高くなる。

## 問 6 26 正解は④

大統領選の政党支持に関する文章の空欄補充。地理の入試問題としてはきわめてユニークな、政経の問題のような題材である。しかし、文をよく読めば、地理の基本的な理解から十分に考察可能な問題である。

ラは「ニューイングランドや西海岸」。地図をみれば、民主党の支持者は北東岸のニューイングランド地方や西海岸のカリフォルニア州などの大都市圏に多いことがわかる。この図ではわからないが、他の地域でも大都市圏は民主党、郊外・農村部は共和党の支持者が多いという傾向がある。

リは「工場の海外移転を抑制する」。五大湖沿岸のスノーベルトは、フロスト（霜）ベルト、ラスト（錆）ベルトとも呼ばれ、鉄鋼・自動車などの製造業が衰退し、既存の白人労働者らの失業が多かった。したがって、2016 年の大統領選挙で共和党のトランプ候補が短期的に彼らの支持を得るには、彼らの職を奪うと考えられた低賃金の移民労働力を排除することや、国内工場のメキシコなどへの移転を抑制することを主張するのが効果的だったのである。

## 第 5 問 地域調査（京都府宮津市）

### 問 1 27 正解は③

市町村別の人口増減率・京都市への通勤率に関する統計地図の説明文の正誤判定。知識は不要であり、図をみて、選択肢の文章を丁寧に読み取るだけの設問である。

③は正しい。京都府南端の市町村（木津川市）は、京都市への通勤率は 3～10% で、人口は増加している。

①は誤り。宮津市のすぐ南に隣接する市町村（福知山市・舞鶴市）は人口減少率が0～15%である。

②は誤り。京都市への通勤率が10%以上の市町村のうち、京都府の北で接する市町村（南丹市）は人口減少率が0～15%で、増加していない。

④は誤り。京都市への通勤率3%未満の北部の7市町、および南東端の1村は、いずれも人口が減少している。

## 問2 28 正解は②

地形図と古地図の判読に関する説明文の正誤判定。これも基本的な地図記号を除き、ほぼ知識不要で選択できる。

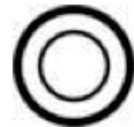
②は適当。体育館やその北の船着き場（右図＝渡船の発着点）の位置は、近世後期の古絵地図では海であり、近代以降に埋め立てたと考えられる。

①は不適。該当する地区は古絵地図では魚屋町となっている。これは職業名（他に大工町・材木町・呉服町など）を町名とした町人町とわかる。



③は不適。東西・南北に走る道に対して、のちの時代に作られた斜めにショートカットする道路である。

④は不適。市役所（右図）は本丸の跡地ではなく、三の丸跡地の西、大手川の対岸に立地している。



## 問3 29 正解は②

天橋立の景観写真の判別。これも知識は全く不要であり、基本的な空間認識のクイズに過ぎない。慌てずに4つとも決めることで確実に選びたい。

Aは②。海側に突き出した陸地に家屋が集まる集落があり、写真左手前から右奥に砂州が伸びている。これはA地点からみて東から南西に伸びる天橋立に合致する。

Bは④。写真奥の遠方に左右に伸びる砂州が写っている。天橋立から最も遠い地点での撮影である。

Cは③。写真右手前から左奥に向かって砂州が伸びている。右手前には、天橋立の観光客向けの旅館と思われる建物が間近に写っている。天橋立を南西側から望む地点である。

Dは①。写真中央を手前から奥に砂州が伸びている。天橋立を南側に延長したライン上の地点からの撮影である。

問4 30 正解は⑥

丹後ちりめんに関する資料の適語補充。8 択形式で面倒に思えるが、内容的には易しい。慌てずに処理したい。

カは「湿った」。冬季にユーラシア大陸の内陸で発達するシベリア高気圧から吹き出す乾いた寒冷な北西季節風は、暖流（対馬海流）の流れる日本海で水蒸気を受け取り、湿った風となって日本列島の日本海側に吹き付ける。多くの降雪をもたらす湿潤な風であるため、丹後地方の湿度は高く、乾燥すると切れやすい絹糸を用いた絹織物の生産に適している。

キは「安価」。生産コストの低いアジア諸国からの輸入品が低価格で流通するようになると、冠婚葬祭などの機会にしか着用しない高級化した和服はさらに敬遠されるようになり、生産が縮小した。

クは「ブランド化」。たとえ日本で大量生産が可能になったとしても、価格面での競争力には期待できない。むしろ、伝統的工芸品としてのブランド力を高めることによって、中国などで増加する富裕層をターゲットにした輸出戦略を取ることが望ましい。実際に丹後ちりめん業界では、現代的な統一ブランドの作成、有名デザイナーとのコラボレーション、ファッションの本場パリへの進出などを進めている。また、和装業界全体では、UNESCO（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産への「和装文化」の登録を目指す運動が行われている（小千谷縮・越後上布・結城紬は個別に登録済み）。

問5 31 正解は④

聞き取り調査に関する考察文の正誤判定。丁寧に資料を読めば、半ば常識的に判断できる。

④は不適。人口の郊外化とは、発展の著しい大都市において、都心部の地価高騰や生活環境悪化に伴って、その周辺の住民が郊外の良好な環境や安価な住居費を求めて流出することである。地方圏の小都市である宮津市には当てはまらない。また資料によると、移住の要因として「米作りや狩猟」「古民家を改修」などがあるため、近隣からの移住ではなく、自然との共存や田舎暮らしに憧れる東京や大阪など遠隔の大都市圏からの移住が想定される。

①は適当。「かつては…子どもが多かった」と、少子化が暗示されている。

②は適当。①と合わせ、担い手の減少に結びつく若年層の流出は明らか。

③は適当。「●都市と農村の交流」に同内容が明示されている。

問6 32 正解は①

外国人観光客の統計に関する説明文の空欄補充。きわめて易しい統計の読み取りと、単純な文脈の理解の組み合わせである。時間配分に注意して必ず正解したい。

サは大阪府。図形表現図では、図形の面積が統計の数値と比例している。東京都の次に大きな円は大阪府付近に描かれている。

シはF。文章2行目の「外国人延べ宿泊者数が少ない県」は、東北地方、山陰地方（中国地方の日本海側）などに多く、これらの県は2013年に対する比が高位となっている。これらの地域は大型テーマパークなどの立地には乏しいが、温泉や農山漁村には事欠かない。また、割合の高い中国や韓国からの観光客は、かつては爆買いに象徴されるGの都市型観光を中心にしていたが、(Covid-19 ウイルスの流行以前の)最近ではリピーターを中心にFの体験型観光へとシフトしつつあった。このような変化を「モノ消費からコト消費へ」と表現する。